

① 児童による授業評価を生かした授業改善の取組 ～年3回の授業評価による指導の改善・充実～

【A小学校における授業改善の取組】

「話す」「聞く」「書く」「読む」の4つの視点で授業評価を実施し、その結果を踏まえ、指導の改善方策について共通理解を図り、学校全体で授業改善を進めています。

授業評価シート

〇〇市立〇〇小学校

先生方は、みなさんが日ごろ勉強時間に感じていることを教えてほしいと思っています。これからもみなさんが「自ら学び、工夫する子」でいてもらえるように、みなさんといっしょにがんばります。

〈話す〉

- 1 先生の声はよく聞こえますか。 はい () ・ いいえ ()
2 先生の説明はわかりやすいですか。 はい () ・ いいえ ()

〈聞く〉

- 3 先生はだれの意見でも最後まで聞いていますか。 はい () ・ いいえ ()
4 先生は間違った答えでも大切にしていますか。 はい () ・ いいえ ()

〈書く〉

- 5 先生の黒板の文字は見やすいですか。 はい () ・ いいえ ()
6 先生は黒板を工夫していると思いますか。 はい () ・ いいえ ()

〈読む〉

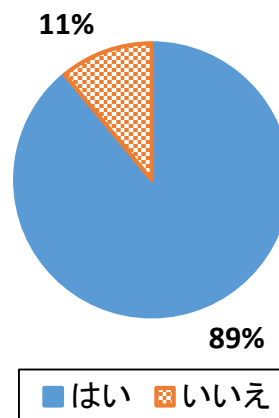
- 7 先生の教科書を読む速さはちょうどよいですか。 はい () ・ いいえ ()

〈 1～7をもとに、自分のこともふり返ってみましょう 〉

- ①話す→
②聞く→
③書く→

7月、11月、2月にアンケートを実施します。

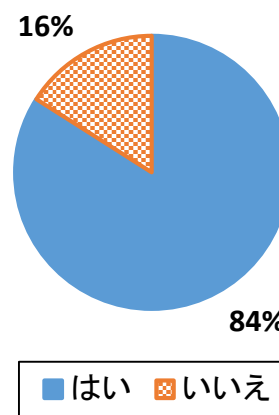
5 先生の黒板の字は見やすいですか。



アンケート結果から、成果と課題を明確にします。

課題の改善方策について、全教職員で共通理解を図ります。

6 先生は黒板を工夫していると思いますか。



この他にも、説明の仕方（ナンバリング、ラベリング）などについても共通理解を図ります。

〈板書の意義〉

【音声言語の補助手段】

- ◇正確かつ明瞭に伝達することが可能
- ◇留意点を活動中も意識させることが可能

【集団思考のノート…形成機能】

- ◇ねらいの共有化、課題の明確化
- ◇比較や概念の関連付けなど思考のヒント
- ◇子どもの思考に沿った加除修正

【理解・定着機能】

- ◇概念や知識の整理や構造化
- ◇学びの流れ、概念や知識の習得過程を振り返る手立て

板書を軽視していませんか？

音声は消えるが、板書は残る！この「残る」そして「見える」ことを最大限に生かすのです

〈取組のポイント〉

「日常授業の改善」と「児童自身の学び方の振り返り」という2つの目的で児童による授業評価を実施し、教務部が中心となって分析して、課題の見られた項目について具体的な改善方策を示し、全教職員の共通理解のもと、授業改善を図っています。

道内の市町村、学校、家庭や地域の取組事例 〈学校の取組〉

② 授業評価、自己評価を生かした授業改善の取組 ～評価の分析を踏まえた改善方策の設定～

【B小学校における授業改善の取組】

児童による授業評価と自己評価の結果を分析して課題を明らかにし、改善の具体的な方策について、全教職員で共通理解を図りながら、学校全体で授業改善を進めています。

学年ごとの「授業評価」「自己評価」の結果を集計しています。

授業評価		A	B	C	D
1	先生は、授業の課題やめあてを黒板に書いてくれますか。	48	4	0	0
2	先生は、授業中に考えたり作業したりする時間を十分にくれますか。	26	26	0	0
3	考えたり作業したりするときは、先生は黙って待っていてくれますか。	15	29	6	2
4	先生は、授業中の練習問題をその時間のうちに答え合わせをしてくれますか。	30	22	0	0
5	授業中の練習問題は、先生が直接見たりまるつけをしてくれたりしますか。	23	23	6	0
6	先生は、わかるまで教えてくれますか。	31	18	3	0

自己評価		A	B	C	D
1	あなたは、学習の課題やめあてをしっかりと確認して授業に参加していますか。	26	21	5	0
2	あなたは、おしゃべりや手遊びをせず、集中して考えたり作業をしたりしていますか。	9	33	8	2
3	あなたは、先生に言われたことを、決められた時間で終わるようにがんばっていますか。	30	18	3	1
4	あなたは、授業中にまちがえたりできなかったりした問題は、その時間のうちに直すようにしていますか。	26	19	7	0
5	あなたは、先生が見やすいようにノートやプリントに書いていますか。	22	25	3	2
6	あなたは、わからない問題でもあきらめずに最後までがんばって取り組んでいますか。	27	23	1	1

【分析】

- 考えたり作業したりするときに質問などが出るため、途中で補足説明などをする傾向がある。
- 学習の流れについては定着しているが、自力解決に時間がかかる児童が多く、練習問題等に取り組む時間が少なくなる傾向がある。
- 学習規律が乱れがちになる時期があった。

↓

【改善方策】

- 思考させるときには、質問などが出ないように事前に適切な指示をする必要がある。
- 自力解決の際に、取組時間に差に対応する工夫を考える必要がある。
- 学習規律を再確認し、徹底する必要がある。

〈取組のポイント〉
児童による授業評価と自己評価の差に着目して、学級ごとに分析し、改善方策について検討した結果を全教職員で共有し、共通理解に基づく指導を徹底しています。

③ 生徒による授業評価を生かした授業改善の取組 ～授業評価の結果の指導案への位置付け～

【C中学校における授業改善の取組】

年に3回行っている授業評価の結果を指導案に示し、評価結果に応じた授業改善の手立てを明らかにするなど、学校全体で授業改善を進めています。

音楽の授業評価

質問項目	1年生 7月	2年生 7月	3年生 7月	全校 7月
①今、何をしなければならないのかの指示が分かりやすい	3.69	3.95	3.64	3.76
②発表の仕方が分かりやすく示されたり、指導されたりしている	3.46	3.84	3.36	3.56
③自分の意見を整理する時間が確保されている	3.62	3.84	3.55	3.67
④自分の意見や感想などを全体に向けて伝える機会が多くある	3.46	3.63	3.55	3.55
⑤ペアやグループで話し合う場面が多くある	3.23	3.37	3.18	3.26
⑥先生は、授業中に発表したことについて評価したり、アドバイスをしている	3.31	3.63	3.45	3.46
⑦授業は発表しやすい雰囲気である	3.54	3.68	3.82	3.68

実際の指導案の記載

5 研究主題との関わり

授業アンケートで見ると項目⑤の「ペアやグループで話し合う場面が多くある」が目立って低い。音楽の授業は、1人で考える場面が指導の中で多かったことがこの結果につながっていると考えられることから、本時では、グループ学習を取り入れ、生徒たちが自分の考えを仲間に伝え合う中で、曲の楽器編成の違いに気付くことができる授業を進めていく。

本校の研究主題は「『伝える力』を育む教育活動の改善・充実」であり、指導者は授業評価の結果を踏まえてグループ学習による交流の場面を設定し、授業の活性化を図るとともに、交流の中から本時の目標である楽器の音色や響きの違いを感じ取れるよう指導展開の工夫を図っていった。

アンケート結果を各教科において活用することで各教科担任の授業改善に対する意識に高まりがみられた。

※4段階評価で授業を評価し、数値化したものであり、各項目とも4点満点。

〈取組のポイント〉

授業アンケートの結果を指導案に位置付け、教師が自らの授業実践を振り返りながら学習計画を作成し、校内研修のねらいや生徒の視点に立った授業改善を図っています。

道内の市町村、学校、家庭や地域の取組事例 〈学校の取組〉

④ 家庭学習強化週間を設定した学習習慣の定着に向けた取組 ～家庭学習相談会による具体的な学習方法の指導～

【D中学校における学習習慣の定着】

「学習に関する事前アンケート」を実施し、その結果を踏まえ、「家庭学習強化週間」と「家庭学習相談会」を設定し、学校全体で生徒の家庭学習習慣の定着に向けた取組を進めています。

学習に関する事前（11月）、事後（12月）アンケート集計結果 （一部抜粋）

アンケート項目		事前		事後	
		1年	2年	1年	2年
1 あなたは、授業で、分からないこと、間違えたこと、不十分なことがあったとき、どうしていますか。					
①できるようにしようと、先生や友だち、保護者などに聞く		47.7%	53.7%	56.4%	70.7%
②できるようにしようと、家で復習する		43.2%	41.5%	33.3%	24.4%
③特に何もしていない		6.8%	4.9%	10.3%	4.9%
④その他		2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
2 あなたは普段、授業で不十分なところなど、自主的に学習することが、1週間に何回くらいありますか。					
①ほぼ毎日		27.3%	85.4%	66.7%	87.8%
②週に3～4回		29.5%	7.3%	7.7%	4.9%
③週に1～2回		27.3%	7.3%	20.5%	7.3%
④テスト前だけやる		15.9%	0.0%	5.1%	0.0%
⑤まったくやらない		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 家庭学習で「何をすればいいのかわかりませんか。教科別に教えてください。					
国語	①分かる	65.9%	39.0%	87.2%	58.5%
	②何となく分かる	29.5%	39.0%	10.3%	36.6%
	③よく分からない	4.5%	19.5%	2.6%	2.4%
	④まったく分からない	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%

事前アンケートで、「家庭学習で何をすればいいのかわからない」と回答した生徒を学習相談会へ参加させることにより、事後アンケートでは大きな改善が見られています。

事前と事後のアンケートの結果分析から、今後に向けた方策を示し、全教職員で共通理解を図り、取組を進めています。

ほぼ毎日、自主的に学習する生徒が、第1学年では39.4%、第2学年では2.4%増加しました。

国語の家庭学習の方法が分かる生徒が、第1学年では21.3%、第2学年では19.5%増加しました。

〈今後へ向けて〉

- ① 家庭学習強化週間を通して、学習方法が「分かった」と感じる生徒が増えてきている。強化週間以外でも、各教科において効果的な学習の方法を定期的に提示していく。
- ② 「マイノート」については、ほとんどの生徒が、毎日最低1ページ分取り組むことができている。「マイノート」をきっかけに、家庭学習に取り組む時間を徐々に増やしていくよう促していく。
- ③ 学習相談会を経ても、やり方が分からないと回答している生徒については、教科担任が聞き取りを行い、より具体的な方法を提示していく。 など

〈取組のポイント〉

家庭学習強化週間を設定し、家庭学習の計画を作成させるとともに、家庭学習相談会において、学習の仕方に対するアドバイスを個別に行うことにより生徒の家庭学習に対する意欲を高める取組を進めています。